

若餅をちきり重ねし千代の数

菊露

とれかとうちるやら桃はそこらうち  
月に寝て居るなり花に泣上戸

鳴鶴

七種ななくさや是从から買ふは千代見草

社中

稲波

梅さくや隣から来る茶の使ひ

まさ女

はつ東風や波静なる夜明ふり

柳波

輪かさりや常には筒の掛ところ

以文

うくひすの初音を敷のかまへかな

松翠

あらたまる年や子供こどもの行義ぎぎふり

一羽

取添とけぞひを見に出る畑はたけや露つゆの臺とう

一尾

東雲しののめやはらく明て初からず

一洲

黄鳥あきや旭あすまはゆし障子越し

忍舍

まきれなき春の声なり若菜売

松笠

昇る旭の蔭もうるはし福寿草

孤山

蓬菜ほうさいやものゝ香深き青むしろ

霞松

立春の姿つくるや垣根草

如月

事足りし草の戸くちやはつ日の出

玉泉

手まりつく影おもしろし茶の間哉

霞鳥

月の出で猶も芽出たし梅の花

夜雪

とし玉たまに添へて貰ふや梅の枝

香月

朝月の上下に見る雲雀哉

霞山

静なる風うつくしき柳かな

徳月

万才ばんさいの来てひらきけり筒の梅

萬女

門松かどまつや明る戸口に向ふ風

時月

水音みづねの太る柳のみとりかな

霞川

仙鳥翁せんちゆうの古稀こきを賀して

観月

老てなをまさる色香やうめの花

仙鳥

静さの寄る年波や宿の春

二十一年 子の春

一月のこゝろ居りぬ雪ひと夜

仙鳥

とし立や備へ並ふる物の上

万才や市で買った顔もせず

はつ鶏けいや春と定めし人心

貯へし若菜わかしやそれも雪の中

田つくりや二三日前は市のもの

咲初さきて育つやうなり福寿草

鞠まりつくや都見みやこたいと唄うたにまで

島ふたつ海にゆかりや初日の出

待詫まちて聞うれしさやはつ鳥

五獅子

⑥ 新年摺

我庵わいあんのふた柱はしらなり梅家うめや内喜うちき

年々や松にはつ日は我備

はつ鳥更とりによき世を知らせけり

世の上の月雪花つきゆきそ三ヶ日

ふりくや頂いただきいて来て床の上

汚れぬは清し今年も着衣きそ始はじめ

言の葉の幸はふ国や年の花

君か代きみかしろや先弓せんきゆうよりも筆ふではしめ

綱引つなひや常は誇らぬ人なから

風はなは届くや不二ふじのはつ霞

出入でいりにも門かどふくくしかさりわら

手を副そえて子こに太箸たいしゆを持たせけり

一月のこゝろ居りぬ雪ひと夜

とし立や備へ並ふる物の上

万才や市で買った顔もせず

はつ鶏や春と定めし人心

貯へし若菜やそれも雪の中

田つくりや二三日前は市のもの

咲初て育つやうなり福寿草

鞠つくや都見たいと唄にまで

島ふたつ海にゆかりや初日の出

待詫て聞うれしさやはつ鳥

うつくしき色や姿やかさり海老

蓬宇

羽洲

寛和

連水

竹夫

素水

みき雄

閑茶

蘭経

竹丘

嶺外

山花

只雪

もと雄

如泉

蓬貝

正雄

一晷

梅素

嵐水

其華

晴湖

風船